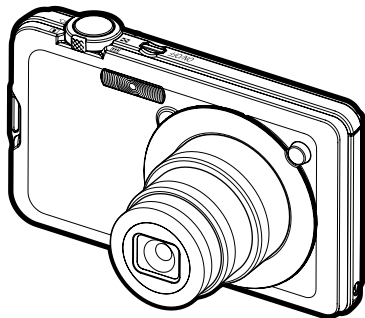
液晶デジタルカメラ

J Z

EX-S10

取扱説明書（保証書付き）

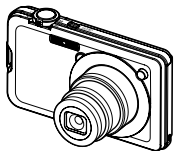
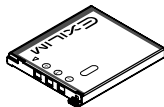
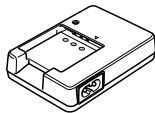
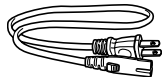
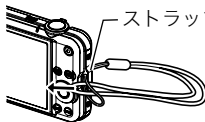
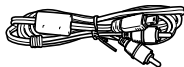
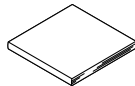
すぐに使いたいかたは
ここをご覧ください
⇒ 9ページ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）またはカシオホームページ（http://casio.jp/）でご覧になることができます。

CASIO®

K1100FCM1PKC

EXILIM【エクシリム】

そろっていますか

箱を開けたら、以下のものがすべてそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

デジタルカメラ本体	リチウムイオン充電池（NP-60）	充電器（BC-60L）
電源コード	ストラップ	取り付けかた ストラップ取り付け部
USBケーブル	AVケーブル	CD-ROM
取扱説明書（本書）（保証書つき）		

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 万一、Photo Loader with HOT ALBUM、Photo Transport、YouTube Uploader for CASIO、CASIO DATA TRANSPORT使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット) 53

よりよい撮影のための設定 60

静止画や動画を再生する 77

再生時のその他の機能(再生機能) 83

プリント(印刷)する 99

パソコンを利用する 106

書類データをカメラに転送する／カメラで見る（データキャリング） 131

その他の設定について 139

液晶モニターの表示内容を切り替える 150

付録 152

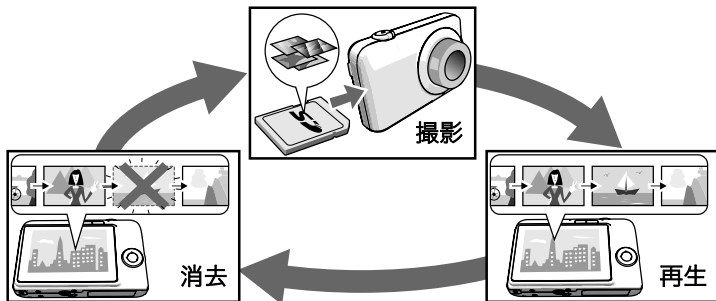
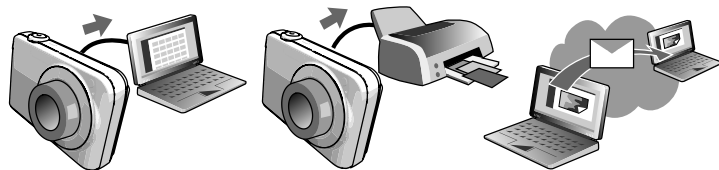
すぐに使いたいかたはここをご覧ください

デジタルカメラではこんなことができます

デジタルカメラではメモリーカードを使用して繰り返し撮影ができます。

撮影

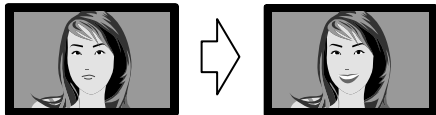
再生

消去

撮影した写真は、さまざまな用途に活用できます。

パソコンに保存できます

印刷できます

電子メールに写真が
添付できます

このカメラでできること

このカメラには、撮影に便利なさまざまな機能が搭載されていますが、ここでは代表的な3つの機能を紹介します。

カメラがブレていない瞬間、笑顔になった瞬間などシャッターチャンスを判断して自動的に撮影します。

オートシャッター

詳しくはこちら31ページ

人物にカメラを向ければ、自動的に人物の顔だけを認識し、きれいに撮影します。

顔認識

詳しくはこちら35ページ

撮りたいシーンを選んでシャッターを押すことで、最適な設定で写真を簡単に撮影できます。

ベストショット

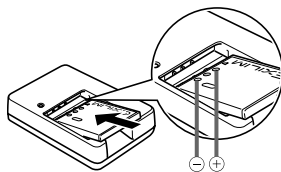
詳しくはこちら53ページ

箱を開けたら、電池を充電する

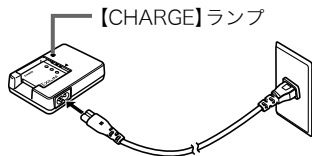
お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の「電池を充電する」にしたがって充電してください。

- 本機は、当社の専用リチウムイオン充電池（NP-60）を電源として使用します（NP-60以外の電池は使用できません）。

電池を充電する

1. **電池と充電器の極性（⊕⊖）を合わせ、電池を充電器にセットする**

2. **充電器を家庭用コンセントに接続する**

約1時間30分でフル充電されます。充電が完了すると【CHARGE】ランプが消灯します。電源コードをコンセントから抜き、そのあと充電器から電池を取りはずしてください。

【CHARGE】ランプ

動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	充電器または電池の異常（157ページ）
消灯	充電完了または充電待機中（周辺温度が高い、または低いため）（157ページ）

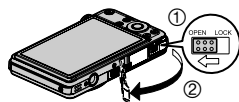
その他充電についてのご注意

- 充電池(NP-60)は専用充電器(BC-60L)を使って充電してください。他の充電器では充電できません。思わぬ事故につながる可能性があります。
- 使用直後の熱くなった電池は、充分に充電されない場合があります。電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。

電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。

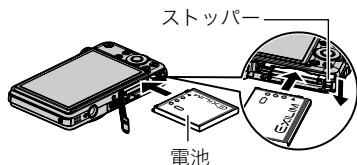
①
OPEN LOCK
②

2. 電池を入れる

電池のEXILIMのロゴのある面を上(液晶モニター側)にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。

ストッパー
電池

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

②
OPEN LOCK
①

- 電池の交換のしかたについては、157ページを参照してください。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い	←――――	――――→		少ない
電池残量表示	[電池アイコン] →	[電池アイコン] →	[電池アイコン] →		[電池アイコン]
残量表示の色	水色 →	オレンジ色 →	赤色 →		赤色

“[電池アイコン]”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“[電池アイコン]”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約2日放置すると、日時の設定がリセットされ、再度日付の設定が必要になります。
- 電池寿命と撮影可能枚数に関しては183ページをご覧ください。

電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“[発光禁止アイコン]”(発光禁止)にしてください(29ページ)。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます(145、146ページ)。

最初に電源を入れたらメッセージの言語を選び時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは

画面に表示されるメッセージなどの言語および時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

■ メッセージの言語を選び、日付と時刻を合わせる

- 日本で使う場合の操作例です。

1. 【ON/OFF】を押して電源を入れる

2. 【▲】【▼】を押して"日本語"を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】を押して日本のエリアを選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】を押して"Tokyo"を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】を押して"切"を選び、【SET】を押す

これで、サマータイムにはなりません。

【ON/OFF】(電源)

【▲】

【◀】

【▼】

【▶】

【SET】

【BS】(🔒)

自宅の都市選択

選んだエリアが赤く表示されます。

6. 【▲】【▼】を押して日付の表示スタイルを選び、【SET】を押す

例)2009年12月19日

"年／月／日"→"09/12/19"と表示

"日／月／年"→"19/12/09"と表示

"月／日／年"→"12/19/09"と表示

7. 日付と時刻を合わせる

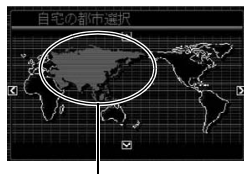
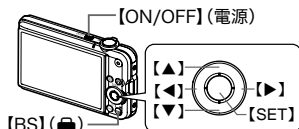
【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。

12時間／24時間表示を切り替えるには、【BS】(🔒)を押します。

8. 【SET】を押す

- 表示言語や日時を間違って設定した場合、設定し直すことができます(144、145ページ)。

参考

- 各国の時差やサマータイムは国の都合により変更する場合があります。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください（本機にメモリーカードは付属していません）。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- 保存できる枚数については179ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

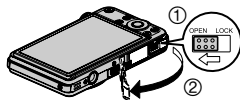
– SDメモリーカード
– SDHCメモリーカード
– MMC（マルチメディアカード）
– MMC*plus*（マルチメディアカードプラス）

当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）をご覧いただくか、本書巻末記載の「カシオお客様相談室」（192ページ）にお問い合わせください。

メモリーカードを入れる

1. 【ON/OFF】を押して電源を切り、電池カバーを開ける

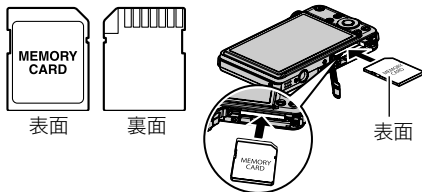
電池カバーのスライドスイッチをOPEN側に移動し、矢印の方向に開きます。

①
OPEN LOCK
②

2. メモリーカードを入れる

メモリーカードの表面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。

MEMORY CARD

表面　裏面

表面

3. 電池カバーを閉める

電池カバーを閉め、スライドスイッチをLOCK側に移動します。

- メモリーカードの交換のしかたについては、159ページを参照してください。

②　OPEN　LOCK　①

重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(15ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、カシオテクノ修理相談窓口(192ページ)またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

新しいメモリーカードを初めて使用するときは、カメラでフォーマットする必要があります。

1. 電源を入れて【MENU】を押す

2. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。

静止画を撮影する

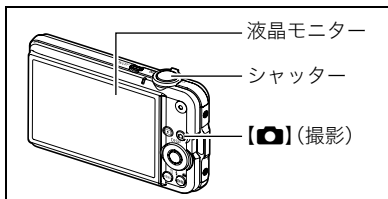
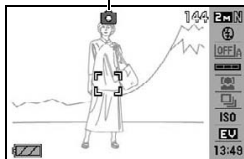
1. 【📷】(撮影)を押して電源を入れる

"📷(オート)"が表示されないときは、53ページを参照してください。

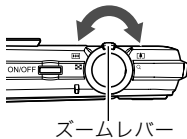
静止画モードアイコン

液晶モニター

シャッター

【📷】(撮影)

2. カメラを被写体に向ける

ズームの倍率を変更できます。

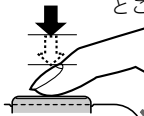
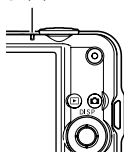
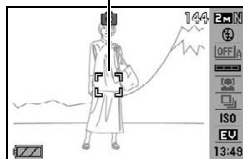
ズームレバー

[♠]望遠

[♠♠♠]広角

3. シャッターを半押ししてピントを合わせる

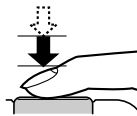
ピントが合うと"ピピッ"と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

後面ランプ　フォーカスフレーム

半押し　軽く押して止まるところまで

ピピッ（ピントが合います）

シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

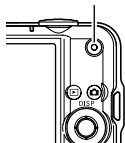
4. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

全押し　最後まで

カシャッ（撮影されます）

「動画を撮影するには」

【●】を押すと動画の撮影が開始します。もう一度【●】を押すと終了します。詳しくは48ページをご覧ください。

【●】ボタン

■ シャッターを半押しせずに一気に押し込んだときは

クイックシャッター(69ページ)が働き、シャッターチャンスを逃さず撮影できます。

- クイックシャッターが働くと、通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせるので、動きの速い被写体を撮影するときに便利です。ただし、正確にピントが合わない場合があります。
- 多少時間がかかっても正確にピントを合わせたい場合は、シャッターを半押ししてピントを合わせたあと撮影してください。

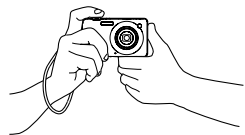
■ ピントが合っていない場合

フォーカスフレームが赤のままで、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向け直して、ピントを合わせてみてください。

■ 被写体が中央にないとき

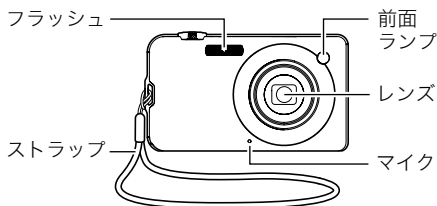
フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロック(64ページ)を使います。

カメラの正しい構えかた

シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えてください。下記の図のように持ち、脇をしっかり締めてください。シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

横に持つとき　**縦に持つとき**

レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

参考

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。

撮影した静止画を見る

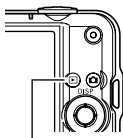
撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については77ページをご覧ください。

1. 【▶】(再生)を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(167ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます。
- ズームレバーを【[🔍]】側にスライドさせると画像を拡大して表示します(78ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像の確認をしていただくことをおすすめします。

【▶】(再生)

101-0414
2M N
08/12/24
18:02

2. 【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える

- 押し続けると、早送りができます。

【▶】 → ← 【◀】
【▶】 → ← 【◀】

撮影した画像を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した画像を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

- 消去したファイルは元に戻せません。
- 音声付きの静止画(96ページ)を消去すると、静止画といっしょに音声ファイルも消去されます。

1ファイルずつ消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑⚡)を押す

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

3. 【▲】【▼】で"消去"を選び、【SET】を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順2～3を繰り返します。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

消去　100-0004
全ファイル消去
消去
キャンセル

すべてのファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑⚡)を押す

2. 【▲】【▼】で"全ファイル消去"を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押す

すべてのファイルが消去され、"ファイルがありません"と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質（71ページ）で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

オートフォーカスの制限事項

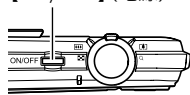
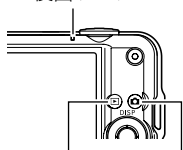
- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
  - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
  - 手ブレをしているとき
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック（64ページ）やマニュアルフォーカス（62ページ）で撮影してみてください。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

撮影モードにするには【ON/OFF】または【📷】（撮影）を押します。再生モードにするには【▶】（再生）を押します。
後面ランプが緑色に一時点灯し、電源が入ります。撮影モードの場合は、レンズが出てきます。

- レンズを押さえたりぶつけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
- 撮影モードのときに【▶】（再生）を押すと再生モードに切り替わり、約10秒後にレンズが収納されます。
- スリープ機能、オートパワーオフ機能（145、146ページ）により、一定時間操作しないと、自動的に電源が切れます。

【ON/OFF】（電源）

後面ランプ

【▶】（再生）【📷】（撮影）

■ 電源を切る

【ON/OFF】を押します。

- 【📷】（撮影）や【▶】（再生）を押しても電源が入らないようにすることができます。また、【📷】（撮影）や【▶】（再生）でも電源が切れるようにすることもできます（147ページ）。